



まいづる

農業委員会だより

No.
65

令和元年9月

発行／舞鶴市農業委員会 舞鶴市字北吸1044 TEL 66-1023 FAX 62-9891



[ドローン撮影協力：舞鶴高専]

古来より、日本人はお米と共に生きてきました。

秋に行われるお祭りの本当の意味は、お米の収穫に感謝するものです。伊勢神宮で行われている神嘗祭(かんなめさい)は五穀豊穡と実りに感謝する祭りで、この神嘗祭が民間に広まったのが秋祭りのようです。

現在は単にお米と思うかもしれませんが、年貢や武士の給料もお米でした。また、大名の経済力も「石高」でした。

11月23日は勤労感謝の日ですが、戦前は新嘗祭(にいなめさい)でした。作物の収穫を感謝し神にお礼をするのがこの祭りです。

お米に感謝し食したいものです。 (嵯峨根委員)

主な内容

- 両丹お茶まつり 2
- 農地利用状況調査 3
- 元気な農業者 4
- きらり輝く女性たち 5
- 地区別会議報告 6~7
- 肉茶がバーガー紹介
全国茶品評会結果 8

令和元年度両丹お茶まつり (第70回両丹茶品評会)を開催



表彰風景



オスカル氏講演

8月4日に赤れんがパークで「両丹お茶まつり」が開催されました。今年度は70回目の節目を迎えた両丹茶品評会褒賞授与式に加えて、記念のシンポジウムを開催。スウェーデン人の日本茶インストラクター／ブレケル・オスカル氏が「日本茶の魅力を考えて語ろう」と題した基調講演で、「日本茶の魅力が海外や外国人、若者に広まっている。多様な楽しみ方で日本茶の可能性はまだまだ広がる。一緒に日本茶の魅力を探っていこう」と述べられました。

パネルディスカッションでは、農業委員の尾上亮介氏（舞鶴高専建設システム工学科教授）がコーディネーターを務め、基調講演者のオスカル氏、



シンポジウム

中田義孝氏（JA京都にのくに茶部会部長）、櫻井喜仁氏（JA京都にのくに茶業青年団団長）、神田真帆氏（京都府茶業研究所所長）が登壇し、両丹茶を取り巻く現状と課題、その打開のための取り組みとして外国人労働者受け入れ、スマート化、消費者や市場を意識した産地づくりなど、キーワードごとに意見交換しました。その他にも、オスカル氏による「急須で入れるお茶の楽しみ方」講座や、お茶を使ったスイーツやドリンクのテイストイング（振る舞い）など、両丹茶の魅力を実感する催しとなりました。

農地利用状況調査を実施しました

例年、農業委員会で行っています農地の利用状況を把握する調査を今年度も7月から9月にかけて農地利用最適化推進委員及び協力員を中心に実施しました。

調査対象は舞鶴市内のすべての農地で、農地利用最適化推進委員が、地域の事情に詳しい協力員等と農地が耕作されているか、荒廃農地があるかなどを直接現地へ赴いて確認しました。農地の所有者の方、耕作者の方、そしてご協力いただいた各地域の協力員の皆様、関係者の皆様には、改めて厚くお礼申し上げます。

今後は、今回の調査を基に、遊休農地の利用について意向を伺う「利用意向調査」を年内に実施する予定です。

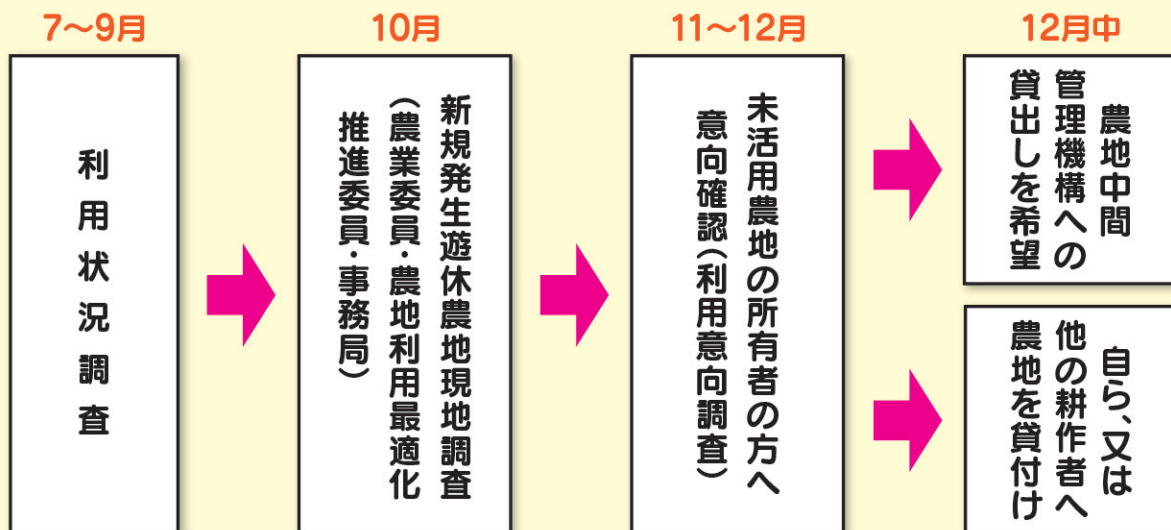
これは、活用が可能な農地であるにも関わらず、今は耕作されていない等の農地について、今後の利用意向を各所有者の方にお伺いするものです。自ら耕作される予定や、農地

中間管理機構等へ貸し出すといった意向を回答していただく調査となっていますので、ご協力をお願いします。

また、昨年からの実施をしております新規発生遊休農地の現地調査について今年度も実施する予定です。これは、今年度から新たに遊休農地となった農地について、農業委員、農地利用最適化推進委員、農業委員会事務局により現地調査を行い、地区別会議などで早期の耕作再開に向けて活動を実施し、遊休農地の解消に向けて取り組むこととなっています。



令和元年度農地利用状況調査等のスケジュール





(加佐地区八田)
一ノ世 尊徳さん (85)
俊子さん (81)
ご夫妻

加佐地区八田で農業に勤しんでおられるご夫婦を紹介します。

ご主人が一ノ世尊徳さん85歳、奥さんの俊子さん81歳の元気人です。

■ 作業分担

経営規模はハウスを3棟・稲作17アール・普通畑20アールを耕作され、ハウスで



一ノ世さんご夫妻

■ 当初は水耕

は「トマト」250本。「万願寺甘とう」300本を、主に尊徳さんが担当、俊子さんは野菜を担当とそれぞれで分担されているそうです。出来た野菜はJA加佐支店カサブランカ(直売所)と舞鶴とれとれセンター(道の駅)で販売されているそうです。

当初、平成9年にハウスを建て水耕栽培を手始めとして出発されたのですが、初っ端から水害に遭い、設備を駄目にされ、やむなく土耕栽培に切り替えたそうです。昨年には7月豪雨での内水氾濫に見舞われるなど幾多の災害に遭われ今に至ると、嘆かれています。昔から、加佐での農業を行う場合、宿命とも言われています。

ハウスではトマトの植え付けが、2月頃と早く、暖房経費が嵩むそうですが「完熟」にこだわり肥料にも工夫されているそうです。ブランドの万願寺甘とうは、ハウス内で背丈よりも高く育っていました。

■ 多彩な品種

俊子さんは野菜を品数多く栽培され主に、玉ねぎを1万本、ジャガイモ・大根・白菜・ホウレンソウ・水菜・ニンニク・ニンジン・小松菜・キャベツ・カブ・レタス・

キウウリ・ナスなどです。直売所向けに、アイスプラントにも取り組んでいます。珍しいものには「レシビ」を付けるか、説明を付けるなど、工夫しているそうです。

お二人は、「苦労は多いが一生懸命にやるだけ」と前向きで元気です。この夏は特に暑く、伺った時も30度超えでした。舞鶴の農業を支えているのは、まさにこの様な方々です。お達者で末永く、頑張ってください。 (野間推進委員)

全国農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS
週刊 金曜日発行
月700円、年8,400円 (消費税別)
■購読のお申し込みは、農業委員会事務局へ
TEL 0773-66-1023
■発行所 全国農業会議所

この国の農と食を伝えます。

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が発行する週刊の農業総合専門誌です。

きらり輝く女性たち

今田ひまわり会

今回は池内地区の今田で活動している女性グループを紹介いたします。

昭和の後期に「今田みどり会」の名前で野菜生産組織の活動をしていましたが、その後組織を引き継ぐ形で地元野菜の販売を中心とする「今田ひまわり会」が平成8年7月に発足いたしました。

当時 15名の会員数で始まりましたが、23年の月日が経過した現在は6名での活動になっております。

発足時にNHKでは「ひまわり」という朝ドラが放送されていたところから、この名前になったということです。

毎週水曜日と土曜日の朝7時から9時半まで今田公民館の所で店を開いております。

この場所は池内地域バス乗り場や可燃物ゴミの集積所になっており人が集まりやすいところです。

5坪ほどの店の中には小学校の子供たちとの写真や感謝状などが展示してあり

これまでの活動の多彩な面が見えます。

店の真ん中にはコンテナで新鮮な旬の野菜が並んでいます。取材で訪れたとき、黄色のまくわ瓜を買ってみました。

懐かしい香りとはほど良い甘さの味は、子供の頃を思い出させてくれました。

お盆前と年末の「今田ふれあい祭り」の時は感謝デーとして地元の皆様に奉仕販売をされ人気を得ています。

会員の皆さんが自分の作った野菜や花を持ち寄り販売をしておりますが、売れ残りが多くと気持ちが悪く落ち込むと話されています。

しかし高齢者になった今は会員の方々やお客さんとの会話ができ、それが一番楽しいと話しておられました。

田舎の必需品である軽トラやバイクで活動されています。気を付けて元気に続けてほしいと思います。
(嵯峨根委員)



お店の様子



左から森本さん、小河さん、久保さん、波多野さん、大谷さん、嵯峨根さん

地区別会議報告

東地区

平成28年の農業委員会に関する改正法により、農業委員・農地利用最適化推進委員の必須業務として「農地利用の最適化の推進」が位置付けられた。「東地区別会議」は業務推進のため農地の利用状況を調査し、平成30年新たに不耕作地となった64筆について一筆ずつ、耕作継続の可否を検討。可能と思われる7筆(2809㎡)につき地主の意向・実情の確認をした。その結果は3筆(1873㎡)が耕作・維持管理で、残り4筆は耕作できないので貸出し希望となった。

そこには農業委員・推進委員が地主に耕作継続のお願いをするだけでは解決しない問題が山積している。

二地区でのアンケートによると。

①担い手不足

◎後継者が家に戻らず高齢化とともに耕作できない。

◎法人、新規就農者、地区の担い手も

現在が手一杯で新たな農地の受け入れ拡大には限界がある。

②採算性

◎現在使用している農機具等が使用不能になれば更新せずに農業をやめたい。

◎山際は手間がかかるだけ。

③鳥獣被害

◎金をかけて防護対策してもダメ、意欲が削がれ耕作を放棄したい。

等々がある。

そこで、東地区別会議は今後活動するにあたってのスローガンを「地域の農業者への情報発信と連携を重視し、課題解決に取り組みよう」とした。今後取り組み課題は難題ばかりだが、地区別会議の利点を生かし、狭い地区という壁を取り払った考え方の連携で、担い手・新規就農者の確保、残すべき農地か否かの選択、農地の見える化等に取り組み、農地の出し手と受け手のマッチングが行われるような活動ができればと思っている。

(松岡委員)



京都府農地中間管理機構から

農用地を借りたい方へ

▶▶▶ 農地中間管理事業が使いやすくなりました!

京都府農地中間管理機構では、平成29年度から通年でいつでも応募いただけるように改めました。併せて、一度応募いただければ、辞退されるまで借受希望者としての登録が継続することとなりました。また、これまで10年以上での契約を原則としていましたが、農地の出し手・受け手双方から「短縮してほしい」との要望をいただき、地域の事情に応じて5年以上も可能としました。皆様のご応募お待ちしております。

お問合せ先

(一般社団法人)京都府農業会議 ☎ 075-417-6868

西地区

西地区別会議においては、西舞鶴の市街地から山間部まで多種多様な農地を抱え、農業委員・農地利用最適化推進委員の両委員が活動しております。

そのような中、今年度からは、地区ごとの活動目標を定め、その目標に向かって各委員が活動を展開していくこととなりました。そこで、委員全員が集まる農地利用状況調査の説明会の折に、活動目標を検討することとしました。

当日は、委員一人ひとりが、地域農業の状況や活動をする中での委員としての考え等を発表し、意見交換をする中で、情報を皆で共有しながら、色々な発見やアドバイスを得ることができました。

そこで、活動目標としては、「農業者の思いをしっかりと受け止め、再生に向けて一歩を踏み出そう」に決めました。一見地道な目立たない活動ではありますが、農業者に寄り添い、そこから一歩一歩進めることが、我々農業委員・農地利用最適化推進委員に求められている活動であると思います。

この想いを胸に、今年は頑張っていくたいと考えております。
(安原委員)

加佐地区

加佐地区別会議の全メンバーは、加佐地域独特の地域性（水害常襲地・後継者不足・有害鳥獣被害地等）によるものか、委員全員の絆が深く、新たに委員になられた方もすぐに地区別会議のメンバーとして、皆さんと意見交換・協議ができる垣根の低い組織です。

このようなメンバーの集まりであるので、年1回又は2回懇親会を開催し、その前段で約1時間地域共通のテーマによる研修会を開催しています。近年では活動スローガンの設定について、新規遊休農地の解消について、茶香服会、学校給食への地区内農産物の提供について等々を議題に研修し（講師は地区別会議の委員が担当）、その後の懇親会にて、更に議論を深める取り組みを行っています。（本懇親会には毎回必ず事務局からも2、3名の参加を得ています。）

最後に各委員・最適化推進委員とも、地域にとけ込んでおられ、担当地域以外でも気軽に農業者と意見交換を行い、具体的な解決策を提案され、地区別会議において全員の承認が得られる活動をしていることを申し添えておきます。
(眞下委員)

農業者年金 で安心、豊かな老後を!

～農業者年金に加入しましょう～

- 農業者なら広く加入OK
- 農業の担い手には手厚い政策支援
- 保険料は自由に設定OK
- 少子高齢時代に強い年金
- 税制上の優遇措置あり
- 終身年金で80歳まで保証

農業者年金の内容やご相談については、最寄りの農業委員会かJA

または農業者年金基金 (TEL:03-3502-3199) にお問い合わせください。(農業者年金加入推進部長 霜尾委員)



◎肉茶がバーガー

“新しい和食のスタイルを”をコンセプトに和食の一汁三菜の考えを取り入れたファストフード。地元産の材料、特産品を盛り込んだバーガー。パンズには両丹茶、丹後米、舞鶴の肉じゃがのじゃがいもを用いた。中身は肉じゃが、京のしば漬け、水菜をのせた新発想のバーガーです。

レシピは福知山淑徳高等学校の生徒さんが考案しました。

おめでとうございます

舞鶴市が全国かぶせ茶部門 第1位の産地賞を受賞！

令和元年8月27日(火)～30日(金)愛知県(西尾市)での「第73回全国茶品評会」の審査会において、産地となる舞鶴市が「かぶせ茶部門」で3年振りの全国1位、個人でも1位、2位、4位が舞鶴市の生産者の方になるなどの快挙を成し遂げました。

品評会では、全国の茶産地からたくさんのお品がある中で、今回の結果となりましたことは、「舞鶴産のお茶」の更なる知名度の拡大につながり、生産者の方々の励みとなるものです。

◆かぶせ茶の部 特別賞(個人賞)

第1位【農林水産大臣賞】

舞鶴茶生産組合 岡田下支部

代表 菱田 繁 政 氏

第2位【農林水産省生産局長賞】

舞鶴茶生産組合 岡田下支部

菱田 美代子 氏

第4位【公益社団法人日本茶業中央会会長賞】

舞鶴茶生産組合 岡田下支部

代表 増茂 義郎 氏

編集後記

■猛暑の夏が終わり、徐々に朝晩、めっきり涼しくなってきました。元号が「平成」から「令和」に変わり、初めての「まいづる農業委員会だより」となりました。今回の発行にあたり様々な方々に御協力いただき、心から感謝しています。

■消費税率の引き上げと共に電子マネーの導入や農産物の関税引き下げなど、日本全体の仕組みが大きく変化しようとしています。その中、地域の独自性と魅力発見がさらに大事になっています。

■次号からも様々な活動を伝えていきたいと思っておりますので、お気づきの情報などがありましたら、農業委員会事務局までお知らせください。(尾上委員)

●広報委員●

- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 嵯峨根 秀樹 |
| 副委員長 | 梅垣 貞子 |
| 委員 | 今田 壽孝 |
| 委員 | 尾上 亮介 |
| 委員 | 大石 昌轟 |
| 委員 | 野間 久一 |